

自走式二軸せん断クラッシャ KMC300S

三成幸夫・毛利 勉
油谷重工株式会社

近年、日常生活から排出される一般廃棄物および産業廃棄物のおびただしい増加により、処分場の不足、不法投棄など大きな社会問題が生じている。これらの廃棄物を現場内で安全に効率よく破碎処理、またリサイクル処理できる自走式二軸せん断クラッシャ「KMC300S」を開発したので、その概要を紹介する。第1表に主要諸元を、写真1にその外観を示す。

1. 特徴

- 1) 高トルクモータ (14 ton·m) の採用で、強大な破碎力を発揮して効率よく対象物を破碎する。
- 2) カッタは切れ味、耐久性にすぐれた特殊鋼のピースタイプを採用。交換容易なボルト取付式で整備、交換費用の削減ができる。
- 3) カッタ回転速度調整ダイヤルの採用で、対象物や投入量により最適な速度がえられる。

第1表 KMC300Sの主要諸元

全長	mm	8 420
全高(ホッパ)	mm	3 900
全高(輸送時)	mm	3 140
全幅	mm	2 990
定格出力	kW/min ⁻¹ (PS/rpm)	121/2 000 (165/2 000)

- 4) 搬送機は後出し、前出しが選定できる構造を採用。狭い現場でもスペースに応じて投入作業機とのシフトが組める。
- 5) リモコン式の非常用停止スイッチの採用により、投入作業機からもエンジン停止ができる。

2. 用途

産業廃棄物、廃家電品、粗大ごみ、タイヤ、木材などの幅広い対象物の破碎に対応でき、輸送コストの低減、最終処分場の延命、燃料、原料などへのリサイクルが可能。



写真1 KMC300Sの外観

問い合わせ先：油谷重工(株) 技術部第4グループ TEL (082) 874-5529 FAX (082) 875-2237

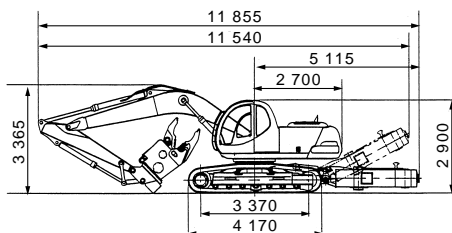
大型エンジン解体機 CEC1200

三成幸夫
油谷重工株式会社

国産大型乗用車、RV車の普及により大型エンジンの解体とリサイクルが必要となってきている。普通乗用車向のコベルコエンジン解体機はすでに多くのユーザへの納入実績をもっているが、こうした大型エンジンの解体、リサイクルの市場ニーズにこたえるため、油圧ショベルSK200(第1図)をベースに、「大型エンジン解体機CEC1200(第2図)を開発したので、その概要を紹介する。

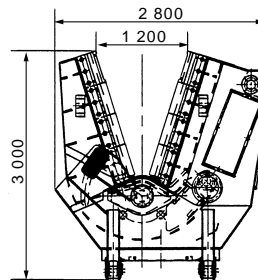
特徴

- 1) 最大開口幅1200mmにより大型乗用車、RV車、トラック用大型エンジンの解体ができる。

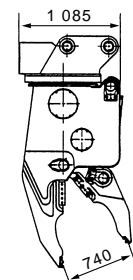


第1図 SK200 大型エンジン解体の外観図

- 2) 最大切断力506トンによりエンジンの本体、クランクシャフト、コンロッドの切断ができる。
- 3) エンジン解体機CEC1200とアーム先端に取付けたニブラC620PR(第3図)により、エンジン本体よりアルミ・铸铁・鉄・合金などを簡単に取出し、分別ができる。
- 4) C620PRは自動旋回機構の採用で、あらゆる角度のエンジン部品をつかむことが可能である。
- 5) CEC1200装着の本体SK200は、建設省認定の低騒音規制値およびエンジン排ガス規制値をクリアしており解体作業が容易である。



第2図 CEC1200 外観図



第3図 ニブラ C620PR の外観図

問い合わせ先：油谷重工(株) 技術部第4グループ TEL (082) 874-5529 FAX (082) 875-2237